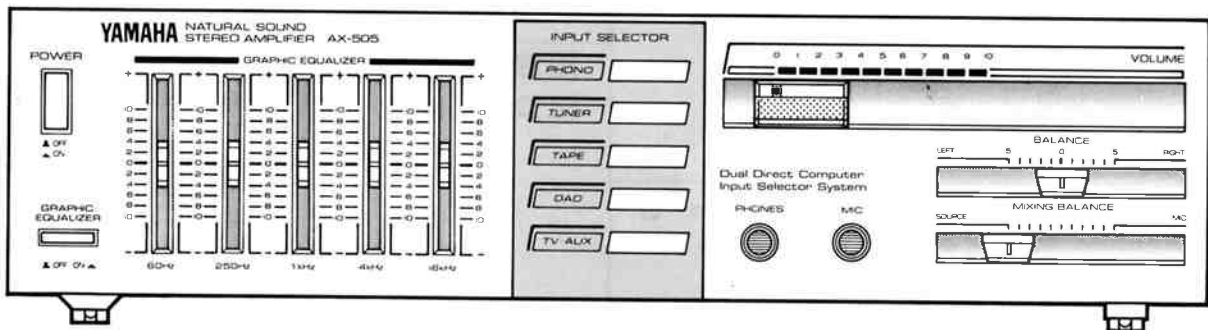




NATURAL SOUND
STEREO AMPLIFIER

AX-505

取扱説明書・保証書



特長

● トータルコンポーネントシステムの充実

NEWシティコアシリーズのセットアップによるマイクロコンピューター集中コントロールで、双方向オートファンクションを可能にします。ファンクション切り替え時のオートストップ、ワンタッチ録音やレコードの倍速録音など、極めて操作性の高い機能を装備しています。

また、別売りのリモコンユニット (SC-505) を使用することにより、離れたところから本機の主な操作を行なうことができます。

● 50W+50Wのハイパワー

小型ながら50W+50W(EIAJ 5%, 6Ω)のハイパワー。THD0.08%の低歪率を実現、音質重視の実力機です。

● 手軽なマイクミキシング機能

すべての入力ソースとのマイクミキシングやミキシング録音は、さらに広がった使い方を演出します。

● 5分割グラフィックイコライザー採用

5分割のグラフィックイコライザーを内蔵。トーンコントロールでは得られない微妙な音創りが可能です。しかもイコライジング録音ができ、あなただけのお好みのテープが作れます。

● 優美なセンターブラックデザイン

センターブラックのシステムトータルデザインです。コンピューターによるイージーオペレーションをこのセンターブラックに集めました。



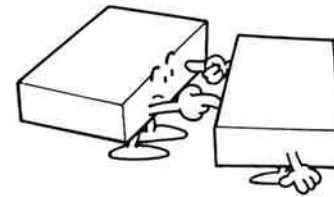

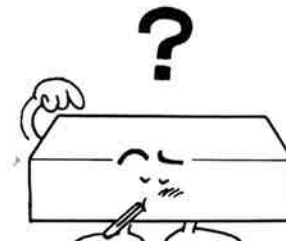

ご使用前に必ずお読みください。

本書には、最終ページに保証書が添付されていますので、所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプ AX-505 をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

AX-505の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障なくお使いいただくためにこの取扱説明書をご使用の前にぜひお読みくださいますようお願いいたします。

目次

末長くご使用いただくために……………2	マイクミキシングのしかた……………9
接続のしかた……………3	
	双方向オートファンクション機能 について……………9
各部の名称とはたらき……………5	
	故障かなと思ったら……………10
演奏のしかた……………7	
	参考仕様……………10
	サービスのご依頼について……………11

未長くご使用いただくために

高温をさけて！

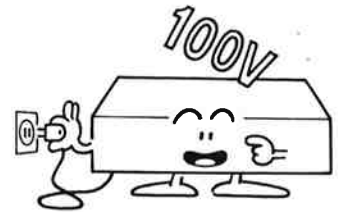


ほこり・水気をさけて！



国内のみ使用可

AC100V
家庭用電源コンセント



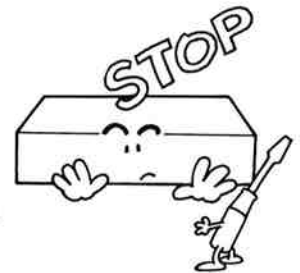
不安定な場所をさけて！



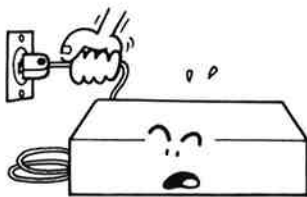
薬物厳禁



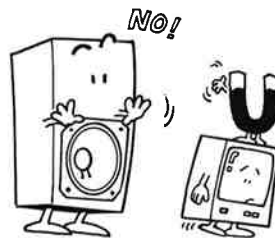
開けないで！



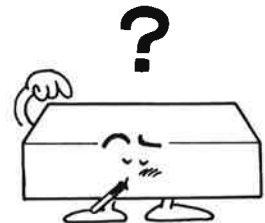
引っぱらないで！



磁気・テレビはさけて！



こわれた？



10ページの「故障かなと思ったら」
をご覧ください。

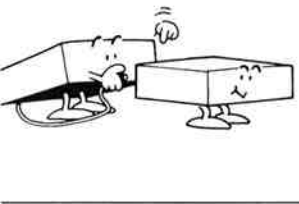
保証書の手続きを！



取扱説明書はかならず
保管してください。



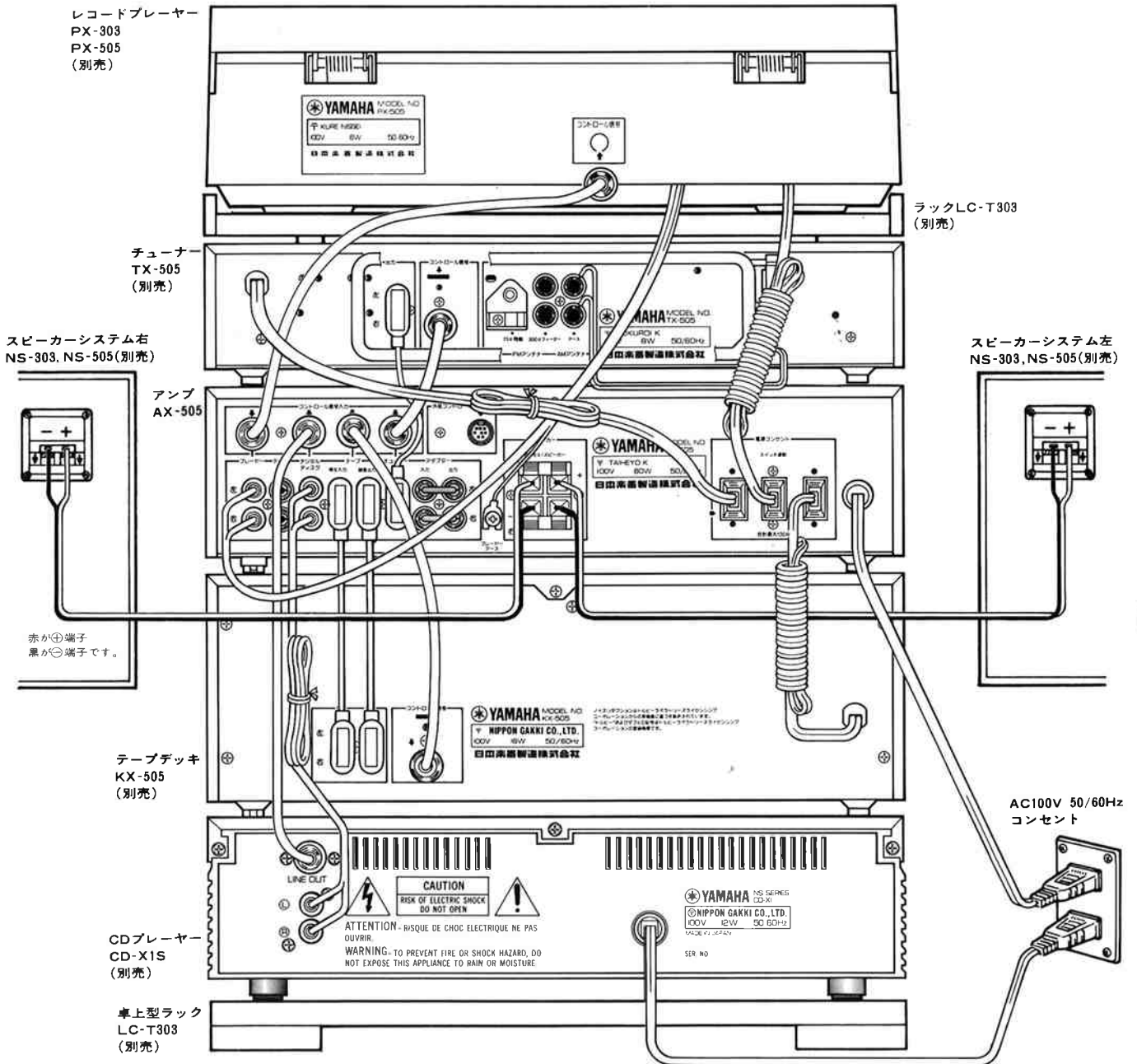
ファイルなど



接続のしかた

- 各セット間の右チャンネル、左チャンネルを確認し、しっかりと接続してください。
- 電源プラグはすべての配線が終わり、配線に誤りがないか確認した後、電源コンセントに差し込んでください。

■接続図

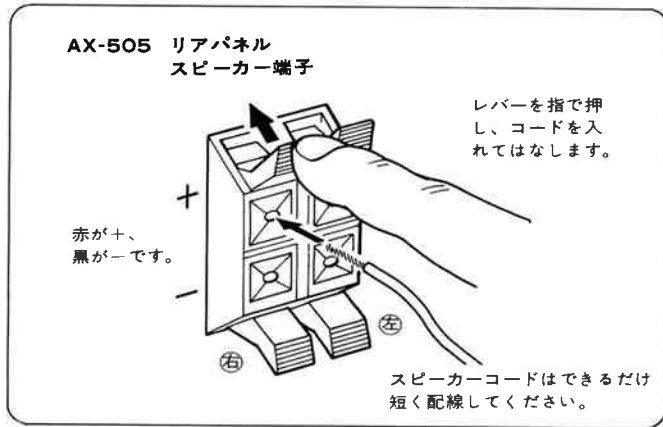


■スピーカーシステムの接続

右(左)側のスピーカーコードをアンプのスピーカー端子の⑥(⑦)に、左右共極性(+、-)を正しく接続してください。

極性をまちがえると低音のそこなわれた不自然な再生音になってしまいます。

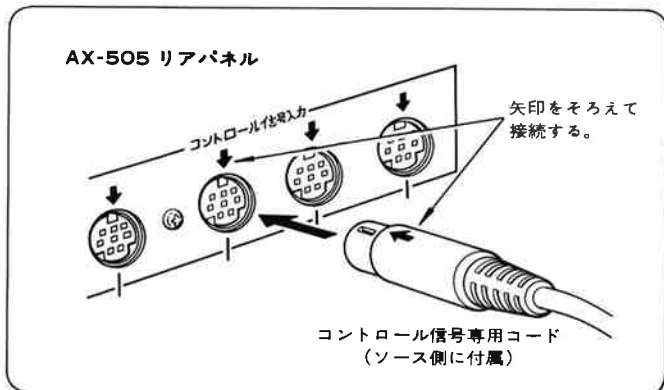
[注]スピーカーはインピーダンスが6~16Ωのものをご使用ください。



■コントロール信号入力端子について

当社のNewシティコアシリーズ(PX-303、PX-505、TX-505、KX-505、CD-X1(S)、SC-505)と接続する場合にのみ、ソース側に付属のコントロール信号専用コードを接続してください。このコードを接続することにより、**双方向オートファンクション機能**(デュアルDUAL ダイレクトDIRECT コンピューターCOMPUTER インプットINPUT セレクターSELECTOR SYSTEM)や**ワンタッチ編集録音機能**(ワンONE タッチTOUCH コンピューターCOMPUTER エディットEDIT レコーディングRECORDING SYSTEM)や**ワンタッチ倍速編集録音機能**(ワンONE タッチTOUCH ハイHIGH スピードSPEED コンピューターCOMPUTER エディットEDIT レコーディングRECORDING SYSTEM)およびリモコンユニットによる**フルモードシステムコマンダー機能**などが働き、Newシティコアシリーズの機能をフルに発揮させることができます。

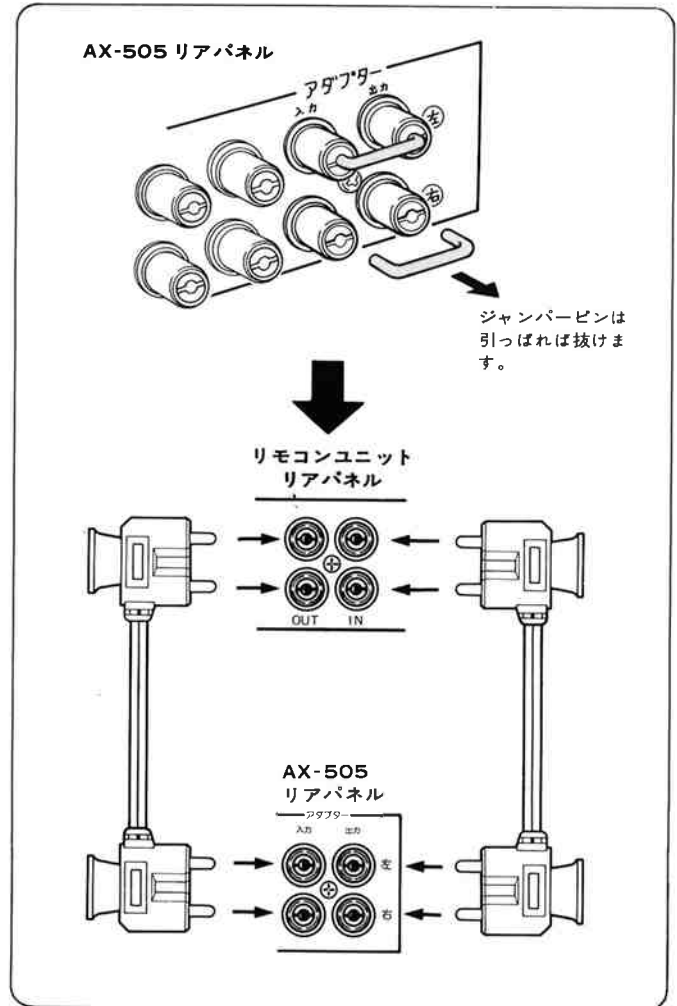
※当社のNewシティコアシリーズ以外と接続する場合には、コントロール信号入力端子には何も接続しないでください。



■アダプター入・出力端子の使用

専用リモコンユニット(SC-505別売)を使用するときは、アダプター入・出力端子に接続します。

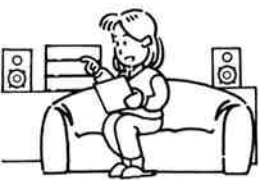
アダプター端子よりジャンパーピンを抜き取り、正しく接続してください。なおアダプター端子を使用しないときは、ジャンパーピンは差し込んだままにしておきます。



■リアパネル電源コンセントの使用

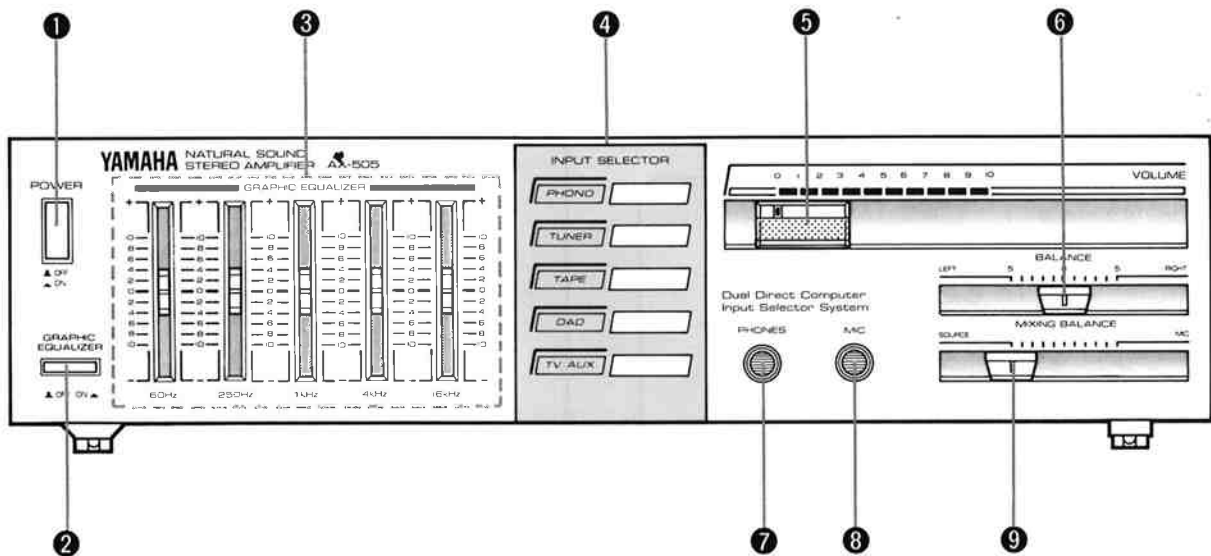
電源コンセント(スイッチ連動)には、3つの合計で消費電力100Wまでの機器が接続でき、電源スイッチをONにしておくと、本機のPOWERスイッチと連動させて電源のON、OFFができます。

接続の際には、接続する機器の消費電力を確認し、必ず100W以下でご使用ください。

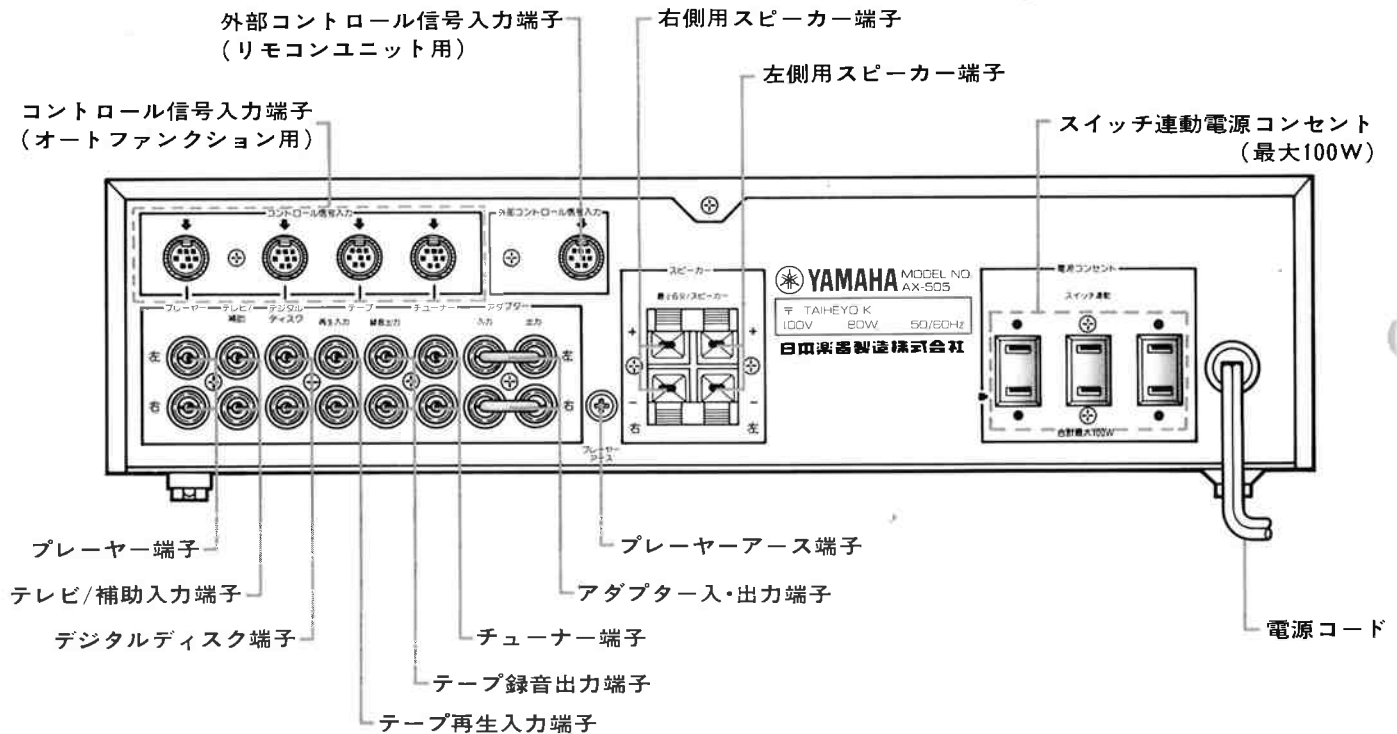


各部の名称とはたらき

■フロントパネル



■リアパネル



① POWERスイッチ

スイッチを押すと電源が入りランプが点灯し、もう一度押すと電源が切れます。

電源を入れるとファンクション(④ INPUT SELECTOR)が自動的にTUNERにセットされます。

② GRAPHIC EQUALIZERスイッチ

スイッチを押すと③ GRAPHIC EQUALIZERが操作可能状態になります。

③ GRAPHIC EQUALIZERを使わないときは、スイッチをOFF ■ にしておきます。

③ GRAPHIC EQUALIZER

最大可変幅±10dBの5素子イコライザーです。

お部屋の条件や好みにあわせ、スピーカーやテープ録音時の音質をきめ細かく調整することができます。

バンド	ブースト時の効果(+側)	カット時の効果(-側)
60Hz	音楽の成分としては少ないが、力強さやスケール感が出てくるブーストし過ぎると音が濁った感じになる。	音がクリアでハグレよくなるが、カットし過ぎるとスケールの小さな音になる。
250Hz	音が厚くなるが、同時に音質が無機的、電話的になる。	音のハグレがよくなくなるが、カットし過ぎると音が薄くなる。音質が電話的な場合はカットした方がよい。
1kHz	すべての楽器の音質が空かんを叩いたような感じになる。ブーストし過ぎると聴き手を疲れさせる原因になる。	中高域が強過ぎて空かんを叩いたような感じの時、この帯域をカットすると音色に落ちつきが出る。
4kHz	全体に前に出て来たような感じになり、音量感も上がる。ブーストし過ぎると「m」「b」「v」の発音が不明瞭になる。	全体に音が気薄で不明瞭な感じになる。ボーカルがうるさい時にもカットすると効果がある。
16kHz	楽器音域を越えた倍音領域が強調され、音の輝きとアタック感が増す。ブーストし過ぎると全体にノイズっぽくなる。	音質のノイズっぽさを消すのに効果がある。カットし過ぎるとシンバル系の音がナベを叩いたようになる。

④ INPUT SELECTOR

入力ソースを選択するボタンです。ボタンを押すとインジケーターが再生するソースを示します。

なお、本機を双方向オートファンクション機能を持つ機器(PX-303、PX-505、TX-505、KX-505、CD-X1(S))、とあわせてお使いになりますと、ボタン1つでレコード演奏やテープ再生を始めることができます。

⑤ VOLUME

音量を調整するツマミで右にスライドするほど音量が上がります。

※PX-303(PX-505)とKX-505を組み合わせると、使用し倍速録音を行ないますと、アンプの音量は自動的に下がってしまいます。

またレコードの速度が2倍になるため、モニター音はかん高い音になります。

※録音時は、音量を8以上にしないでください。録音レベルが変動することがあります。

⑥ BALANCEコントロール

左右のスピーカーおよびヘッドホンの音量バランスを調整します。ツマミを右へスライドさせると左の音が、左へスライドさせると右の音が小さくなります。

リスニングポジションで音像が中央になるように調整してください。

⑦ PHONESジャック

ステレオヘッドホンを接続します。

ヘッドホンを接続するとスピーカーから音が出なくなります。

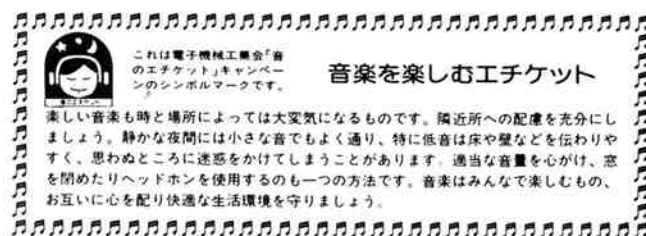
⑧ MICジャック

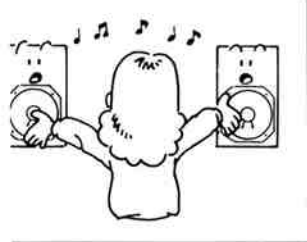
マイクロホンに接続します。本機内部のミキシング回路により、音はモノラルとなり音像はL、Rの中央に定位します。ステレオマイクロホンは使用できません。

⑨ MIXING BALANCEコントロール

入力ソースとマイクロホンの音量バランスを調整します。ツマミをSOURCE側にスライドさせるとマイクロホンの音が小さくなり、MIC側へスライドさせると入力ソースの音が小さくなります。

通常の演奏(マイクミキシングをしない場合)では、ツマミをSOURCE側いっぱいにしておきます。また、マイクロホンの音だけにする場合にはツマミをMIC側いっぱいにしておきます。





演奏のしかた

■レコードの演奏

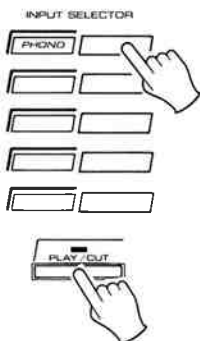
PX-505またはPX-303を使用する場合

1



ターンテーブルにレコードをのせませす。

2



INPUT SELECTORのPHONOボタンまたは、プレーヤーのPLAY/CUTボタンを押します。双方向オートファンクション機能によりレコード演奏が始まります。

※コントロール信号専用コードの接続がされてないと働きません。

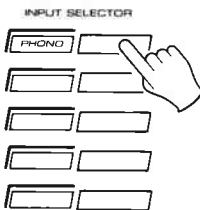
3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

PX-505, PX-303以外のプレーヤーを使用する場合

1



INPUT SELECTORのPHONOボタンを押します。

2



レコードプレーヤーを操作し、レコードを演奏させます。

3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

■AM/FM放送の受信

TX-505を使用する場合

1



TX-505の取扱説明書の「放送の受信」にしたがって放送を受信します。チューナーを操作すると自動的にINPUT SELECTORがTUNERに切り替わります。

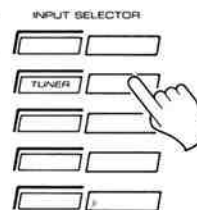
2



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

TX-505以外のチューナーを使用する場合

1



INPUT SELECTORのTUNERボタンを押します。

2



AM/FMチューナーを操作し、放送を受信します。

3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

■テープデッキの再生

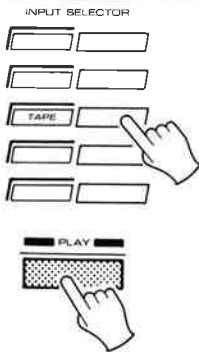
KX-505を使用する場合

1



カセットデッキに再生するテープをセットします。

2



INPUT SELECTORのTAPEボタンまたは、テープデッキのPLAYボタンを押します。双方向オートファンクション機能によりテープ演奏が始まります。
※コントロール信号専用コードの接続がされてないと働きません。

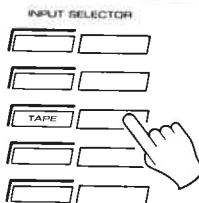
3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

KX-505以外のテープデッキを使用する場合

1



INPUT SELECTORのTAPEボタンを押します。

2



テープデッキを再生状態にします。

3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

■CDプレーヤーの演奏

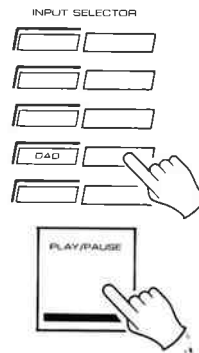
CD-X1(S)を使用する場合

1



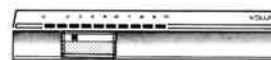
CDプレーヤーに再生するディスクをセットします。

2



INPUT SELECTORのDADボタンまたはCDプレーヤーのPLAY/PAUSEボタンを押します。双方向オートファンクション機能により演奏が始まります。
※コントロール信号専用コードの接続がされてないと働きません。

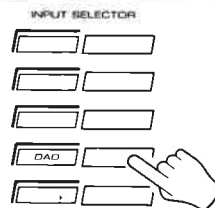
3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。

CD-X1(S)以外のCDプレーヤーを使用する場合

1



INPUT SELECTORのDADボタンを押します。

2

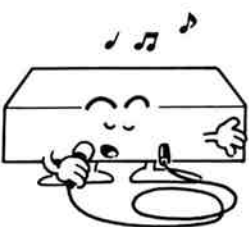


CDプレーヤーを再生状態にします。

3



VOLUME, BALANCEコントロール, GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。



マイクミキシングのしかた

1 MIC

マイクロホン（MIC）をMICジャックに差し込みます。

3

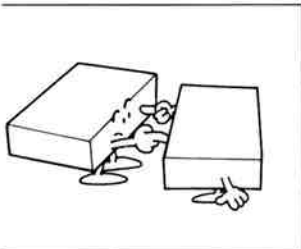
MIXING BALANCEコントロールで入力ソースとの音量バランスを調整します。

2

ミキシングするレコードやテープを再生します。

4

VOLUME, BALANCEコントロール、GRAPHIC EQUALIZERを操作してお好みの音量および音質にします。



双方向オートファンクション機能について

本機は、トータルコンポーネントシステムとしての操作性を高める双方向オートファンクション機能（デュアル DUAL ダイレクト DIRECT コンピューター COMPUTER インプット INPUT セレクター SELECTOR システム SYSTEM）を備えています。

本機を Newシティコアシリーズ（PX-303、PX-505、TX-505、KX-505、CD-X1(S)）と合わせて使用しますと、マイコン制御によりアンプ側のボタンでも、またソース側のボタンでもワンタッチでソースの再生ができます。

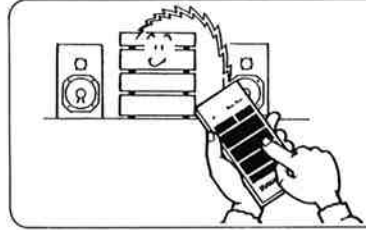
アンプで操作



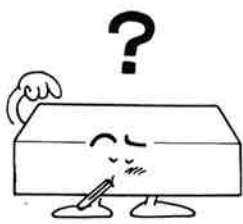
ソース側で操作



リモコン操作について



別売りのリモコンユニット（SC-505）をアンプ（AX-505）に接続することにより離れた所から、インプットの切り換え、及び VOLUME 操作が可能になります。詳しくは、リモコンユニット（SC-505）の取扱説明書をご覧ください。



故障かなと思ったら

ご使用中なにか異常が認められました場合は、下表の事項をご確認ください。それでも直らない場合は、電源プラグを抜き、お買い上げ店か最寄りの弊社サービス拠点までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
POWERスイッチをONにしても電源が入らない。	電源プラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
INPUT SELECTORを切り替えても再生音が全く出ない。	VOLUMEが絞られている。	VOLUMEをあげてください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	MIXING BALANCEコントロールがMIC側になっている。	SOURCE側にスライドさせてください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	バランスがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEコントロールを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの極性(+, -)が合っていない。	アンプの極性(+, -)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき、「ブーン」というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかり差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をプレーヤーアース端子に接続してください。
INPUT SELECTORなどを操作しても動作しない。	スピーカーコードがショートしている。	ショートをなおし、一度電源を切ってから再び電源を入れてください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると「ワーン」という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして「ハウリング」をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)

参考仕様

定格出力

8 Ω, 0.08%(20Hz~20kHz)	37W+37W
6 Ω, 0.08%(20Hz~20kHz)	40W+40W
8 Ω, 5%(1kHz, EIAJ)	45W+45W
6 Ω, 5%(1kHz, EIAJ)	50W+50W

入力感度/入力インピーダンス

PHONO MM	2.0mV/47k Ω
TUNER, AUX, TAPE	150mV/26k Ω
DAD	205mV/11k Ω

最大許容入力

PHONO MM(1kHz, 0.05%)	68mV
-----------------------	------

出力レベル/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/220 Ω
---------	-------------

SN比(入力ショートIHF-A ネットワーク)

PHONO MM(2.5mV)	80dB
TUNER, AUX, TAPE, DAD	98dB

残留ノイズ(IHF-A ネットワーク)

95μV

全高調波歪率(20Hz~20kHz)

PHONO MM→REC OUT	0.03%
TUNER, AUX, TAPE, DAD→SP OUT (19W/8 Ω)	0.08%

混変調歪率(定格出力/8Ω)

TUNER, AUX, TAPE, DAD	0.08%
-----------------------	-------

周波数特性

TUNER, AUX, TAPE, DAD	20Hz~20kHz ±0.5dB
-----------------------	-------------------

トーンコントロール特性

GEQ.(60Hz, 250Hz, 1kHz, 4kHz, 16kHz)	±11dB
--------------------------------------	-------

チャンネルセパレーション

(1kHz, 5.1k Ω, Vol-30dB)	
PHONO MM→SP OUT	70dB
AUX, TAPE, TUN, DAD→SP OUT	70dB

ヘッドホン出力(定格出力時、THD 0.05%)

8 Ω	0.6V
-----	------

ACアウトレット

SWITCHED×3	100W MAX
------------	----------

定格電源電圧、周波数

AC100V 50/60Hz

定格消費電力

80W

外形寸法(W×H×D)

340×86×270mm

重量

4.8kg

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがございます。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼・お問合せは、お買い上げ店、またはYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお願い致します。

■保証期間

お買い上げ日より1年間です。

■保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

■補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。

この期間は通商産業省の指導によるものです。

性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■サービスをご依頼される前に

ご使用中に“故障ではないか”とお思いになる点がございましたら、まず本文中の「故障かなと思ったら」(10ページ)をお読みになってください。意外と故障でない場合があるものです。

■持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお徳です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

■ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

お客様ご相談窓口・お預り修理窓口

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL (044) 434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-8 (シルバーボールビル2F) TEL (0252) 43-4321
大阪電音サービスセンター	〒565 吹田市新芦屋下1-16(千里丘センター内) TEL (06) 877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7(高松店内) TEL (0878) 51-7777 (0878) 22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 (日本楽器名古屋流通センター) TEL (052) 652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472-2134
広島電音サービスステーション	〒731-01 広島市安佐南区祇園町西原2205-3 TEL (082) 874-3787
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9丁目3番地 TEL (011) 781-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5丁目-7(卸商共同配送センター内) TEL (0222) 96-0249
浜松電音サービスステーション	〒430 浜松市東伊場2-13-12 TEL (0534) 56-9211
本社	
営業技術課電音サービスセンター	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL (0534) 65-1111

■日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL(03)572-3111
銀座店	〒104 東京都中央区銀座7-9-14 TEL(03)572-3131
横浜店	〒220 横浜市西区南幸2-15-13 TEL(045)311-1201
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館8.9F TEL(06)251-1111
心斎橋店	〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL(06)211-8331
神戸店	〒650 神戸市中央区元町通2-188 TEL(078)321-1191
高松店	〒760 高松市丸亀町8-7 TEL(0878)51-7777
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL(052)201-5141
九州支店	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2151
小倉店	〒802 北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL(093)531-4331
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1丁目/ヤマハセンター TEL(011)512-6111
仙台支店	〒980 仙台市大町2丁目2番10号 TEL(0222)22-6141
広島支店	〒730 広島市中区基町13-13/平和生命広島ビル8F TEL(082)221-4122
浜松支店	〒433 浜松市幸3-5-8 TEL(0534)74-3356
浜松店	〒430 浜松市銀治町321-6 TEL(0534)54-4077
海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・シンガポール・フィリピン

住所及び電話番号は変更になる場合があります。